

政策分析エッセイ

担当教員: 栗崎周平 (kurizaki@waseda.jp)

2020 年 7 月 5 日

【概要】

- 例年、本科目では「政策分析」エッセイを期末試験が始まる前の時期に提出していましたが、今年度は、期末試験に代替するものとします。
- 国際政治に関連する時事問題などを論評する主要英文雑誌である、**Foreign Affairs** に過去 15 年以内に発表された、研究者・ジャーナリスト・実務者による**時事評論(論文)** 1 編を各自の責任の下で選定し、それまでの授業で考察した概念、理論モデル、実証的知見を駆使して論評対象となっている時事問題のメカニズムについてミクロ的基礎を提示し政策的含意を提示することを目的とします。
- **Foreign Affairs** 誌は、早稲田大学の図書検索システム(WINE)から入って下さい。無料です。
 - <http://waseda.primo.exlibrisgroup.com/>
 - 「雑誌・電子ジャーナル検索」に**Foreign Affairs**と入力して検索すればOK。
 - リストの中では**Foreign affairs (Council of Foreign Relations)**を選択する。
 - データベースの選択肢の中ではABI/INFORM Collectionが使い勝手が良い
 - 早大生は慶應大学のメディアセンターでの検索システム(KOSMOS)でも検索・ダウンロードが出来ます。「電子ジャーナル」のタブを選択してください。
- 日本語媒体の『フォーリン・アフェアーズ・リポート』は**Foreign Affairs** 誌の一部の短い論説を邦訳したものが主体です。課題の対象は、**Foreign Affairs** 誌であり、『フォーリン・アフェアーズ・リポート』ではありません。また、一昨年度までは、**Foreign Policy**からの論文の選定も可能でしたが、今年度は「不可」とします。
- 上記の条件を満たす限り、エッセイの構成や内容は自由ですが、以下の項目を備えていることが求められる。
 1. 選択した時事評論(論文)が取り扱っている事例あるいは政策課題についての概要
 2. 選択した時事評論(論文)における筆者の主張・結論
 3. 各自が選択する授業で考察した概念、理論モデル、実証的知見の概要
 4. 各自が選択した概念、理論モデル、あるいは実証的知見の、考察対象の事例ないし政策課題への応用と分析
 5. 結論:
- エッセイ・クエッション: これまで3つの相互評価エッセイと異なり、問いは各自が設定します。担当教員(栗崎)から指定はありません。どのような問いを立てるのか、つまり各自の**argument** の方向性は各自の責任のもとで決定して下さい。しかし、典型的な方向性は挙げられます。
 1. 理論モデルや実証的知見を用いての、考察対象となっている政策課題への含意についての議論、
 2. 理論モデルや実証的知見を用いての、考察対象となっている政策の政策評価、
 3. 概念・理論モデルの説明力の評価、
 4. 概念・理論モデルなどを援用しての、対象事例の解釈の提示、

など。ただし、これら例は網羅的ではありません。また、どのような観点で問いを立てるのかは選択した論文の性格にも依存します。

【フォーマット】

- A4 2～3ページ程度
- 字数指定：2000字から3000字。
- シングルスペース、ダブルスペースの選択は各自の裁量とします。
- 日本語でエッセイを作成し提出してください。
- フォントサイズは、10.5ないし11ポイント。フォントは、日本語であれば明朝(P明朝)、英語であればTimes New Romanを使用することを推奨しますが、こだわりを持つ方は自由裁量とします。
- 氏名記入・匿名性：これまで同様に匿名での相互評価を前提としていますが、ご自身の氏名を明らかにしたい方が、提出ファイルに記名することを妨げるものではありません。

【評価基準】

- 各自が選択した文献と扱う国際政治学のテーマとの一貫性および妥当性
- エッセイで用いる概念、理論モデル、実証的知見に関する理解の正確性
- エッセイで用いる概念、理論モデル、実証的知見の、時事評論(論文)で扱われている事例や政策課題への援用が、妥当であるか、説得的であるか
- エッセイのスタイルがアカデミック・ライティングとしてのスタイル(含：誤字脱字・構成)
→ 自分が書きたいことを書くことは卒業して、読み手にあなたが理解してもらいたい主張を、あなたの意図の通りに理解されるように書くようにして下さい。

【評価手順】

- 相互評価は、Moodleのシステムとの整合性などを確認のため、他者評価と自己評価の件数配分を現在調整中です。
 - 他者評価:2つのエッセイを評価します。
 - 同じループリックス(評価基準を用いて)自己評価します。
- 上記の評価基準を前提として栗崎が作成した「ループリックス(評価票)」を用いる。
- 相互評価では他の受講者2名のエッセイを評価
- 自己評価と相互評価から得られる合計3つの評価点の中央値を政策分析エッセイの評価点として採用する。

【提出期限】

- 政策分析エッセイの提出期限：7月27日(月曜日)午後11時59分(日本時間)
 - 期限内に提出が出来なかった場合は、相互評価に参加できません。
- 相互評価の提出期限：8月1日(日)午後11時59分(日本時間)
 - 期限後の提出は、一週間後、8月8日(日)午後11時59分(日本時間)まで認めるが、遅延1日ごとに政策分析エッセイに与えられた評価点を5%ずつ減点します。
 - 自己評価も含みます。